

イベント学会総会
(2015年6月4日)

議案書

- 第1号議案 2014年度活動報告(案)および決算書(案)承認の件
- 第2号議案 2015年度活動計画(案)および予算計画(案)承認の件
- 第3号議案 イベント学会会則変更(案)承認の件
- 第4号議案 2015年度会費納入方法(案)承認の件
- 第5号議案 イベント学研究会2014年度活動報告
および2015年度活動計画承認の件
- 報告 1 2015年度新規研究会発足および検討準備委員会発足の件
- 報告 2 ジャーナル編集委員会発足の件
- 報告 3 2015年研究大会進捗状況の件

イベント学会

2015年6月4日

於：東京グリーンパレス

第1号議案

2014年度活動報告（案）および決算書（案）

承認の件

◇ 2014年度活動報告（案）

1. 「イベントサロン2014大阪（第17回研究大会）」

- ◆ テーマ：「イベントと観光立国 歴史・都市・フェスティバル」
- ◆ 会期：2014年11月14日（金）～11月15日（土）
- ◆ 共催：大阪府立大学観光産業戦略研究所、一般社団法人日本イベント産業振興協会
- ◆ 後援：大阪府、大阪市、南海電気鉄道株式会社、
大坂の陣400年プロジェクト実行委員会
- ◆ 協賛：伴ピーアール株式会社、カトープレジャーグループ
- ◆ 会場：大阪府立大学 I-site なんば
- ◆ 内容：大阪では、「大坂の陣400年天下一祭」、「道頓堀川開削400周年」、「水都大阪2015」、「天王寺動物園開園100周年」など大きなイベントを控え、2015年を『大阪都市魅力創造シンボルイヤー』として位置づけている。また、2020年を見据えた大阪からの情報発信も重要と捉え、これらを踏まえた様々なイベントの手法とプランを提言した。
- ◆ 入場料：個人会員・法人会員・自治体会員：5,000円、準会員：無料、
非会員（一般）：10,000円、学生：1,000円
その他、研究発表者エントリー費、交流パーティ参加費等を課金
- ◆ プログラム：

【1日目】11月14日（金）

- 13:00 開会宣言 大会実行委員長 橋爪紳也
- 13:05 来賓挨拶 大阪府知事 松井一郎氏
- 13:10 来賓挨拶 公立大学法人 大阪府立大学理事長・学長 奥野武俊氏
- 13:15 基調講演 イベント学会会長 堺屋太一
- 14:00 パネルディスカッション
「大阪の『三塔物語』 外国人観光客を呼び込む歴史都市の祝祭創造」
モデレーター：橋爪紳也
パネリスト：大阪城天守閣館長 北川央氏
株式会社ユー・エス・ジェイ CMO執行役員 森岡毅氏
近畿日本鉄道株式会社 あべのハルカス事業本部事業部長 中之坊健介氏
- 16:00 交流パーティ Orquesta
- 18:00 大阪城までナイトクルーズ「夜のエクスカーション」

【2日目】11月15日（土） 「イベント学会会員による研究発表」

- 11:00 口頭発表（6題）
- 12:00 ポスター発表（7題）
- 13:00 口頭発表（10題）
- 15:00 閉会

◆事業収支報告：

(1) 2日間の延べ入場者数は294名。

研究発表数（口頭発表＋ポスター発表）は23題（2013年度：24題）。

展示ブースと大会プログラム広告枠は廃止。

参加を有料とした。

事業収入は106万円（2013年度：112万円）。

(2) 事業支出は332万円（2013年度：283万円）。

増加要因は大阪出張費用125万円。

大阪府立大学観光産業戦略研究所の共催となり、会場の大阪府立大学 I - site なんばの施設使用料が無料となった。

(3) 単体事業収支は、▲225万円（2013年度：▲177万円）であった。

2. 研究助成（2件）

募 集：4月22日募集開始～締め切り5月20日

審 査：5月28日審査終了、5月31日発表

報 告：2015年3月30日レポート提出および発表

助成対象研究：申請3件の中から下記2件を選出）

「夜空を舞台にした、新たなイベントの価値を創造し可能性を探る」

井田和広会員（スカイランタン研究会）

「上野村学（教育体験イベント）がもたらす、将来展望への変化」

瀧澤延匡会員（株式会社上野振興公社）

3. イベント学研究会 計30回

「ソーシャルイベント研究会」

4/16、5/21、6/19、7/14、8/23、9/10、10/25、12/8、1/24、2/1、2/17、

「まち歩きイベント研究会」

4/7、5/10、7/12、8/23、10/25、1/8

「東北復興博覧会研究会」

（総会）4/18、5/26、9/22 （幹事会・全体会議）5/14、8/29、12/16

（分科会）11月以降、3つの分科会を計9回実施

「安全対策研究会」4/24・9/5・10/25・11/29・12/20・1/22・2/28・3/28

『屋外型イベントの安全ノート』を発刊し全会員に配布。

4. 大学支援

上智大学公開講座「オリ・パラ、ラグビー、マスターズ支援者基礎教養講座」

4/27～7/6の計10講座を後援中。

5. 交流サロン

「金曜サロン」8回開催

4/25、5/30、6/27、7/25、9/26、10/31、11/28、2/27

「会員交流サロン」2回開催

7/7（法人会員）、9/11（大阪）

6. 広報活動

「イベントロジ第31号」7月31日発行。

総会報告、活動計画紹介、研究大会参加者募集

「イベントロジ第32号」3月16日発行。

第17回研究大会特集

「メールマガジン」

イベント学会ニュース（毎月1回配信のほか、適宜臨時号を配信）

「学会web」

研究大会、イベント学研究会、金曜サロン、交流イベントの参加者募集
研究助成募集、報告書・発表論文掲載、会員情報掲載、フォトギャラリー

「Facebook」

会員による投稿・交流サイト

以上

◇ 2014年度決算書（案）

自 2014年4月1日 至 2015年3月31日

収入の部			
科目名	14年度予算	14年度決算	差額
入会金収入	300,000	60,000	-240,000
年会費収入 個人会員	1,410,000	1,310,000	-100,000
年会費収入 準会員	0	0	0
年会費収入 自治体会員	0	0	0
年会費収入 法人会員	6,700,000	6,500,000	-200,000
事業収入 研究大会	620,000	1,062,000	442,000
事業収入 交流サロン等	600,000	222,000	-378,000
受取利息	0	0	0
当期収入計	9,630,000	9,154,000	-476,000
支出の部			
科目名	14年度予算	14年度決算	差額
事業費 研究大会	3,300,000	3,316,450	16,450
事業費 広報事業	1,500,000	1,657,799	157,799
事業費 研究助成	400,000	338,751	-61,249
事業費 研究会・交流会	600,000	340,602	-259,398
事業費 ジャーナル発行	0	0	0
事業費 東北復興博覧会	0	0	0
事業費 その他	100,000	0	-100,000
事業費計	5,900,000	5,653,602	-246,398
給与・通勤費・ボランティア費	900,000	876,801	-23,199
会議費	600,000	406,752	-193,248
旅費交通費	900,000	332,935	-567,065
消耗品費	70,000	137,189	67,189
通信運搬費	250,000	261,261	11,261
印刷費	100,000	162,864	62,864
賃借料	630,000	648,000	18,000
資料費	30,000	325,188	295,188
謝金	30,000	0	-30,000
会場費	150,000	83,489	-66,511
支払手数料	30,000	17,707	-12,293
雑費	40,000	36,142	-3,858
管理費合計	3,730,000	3,288,328	-441,672
当期支出計	9,630,000	8,941,930	-688,070
当期収支差額	0	212,070	212,070
前期繰越	782,298	782,298	0
次期繰越収支差額	782,298	994,368	212,070

イベント学会 会長 堺屋 太一 様
イベント学会 理事長 成田 純治 様

監 査 報 告 書

イベント学会の2014年度（2014年4月1日～2015年3月31日）
事業報告書および計算書類は、適正かつ妥当であるものと認めます。


2015年5月19日

イベント学会

監事 園田 榮治

園田 榮治 

監事 原田 周平

原田 周平 

第 2 号議案

2 0 1 5 年度活動計画（案）および予算計画（案）

承認の件

◇ 2015年度活動計画（案）

【活動方針】

1. イベントに関わる学術研究の質と量を向上させる。
2. イベントに関わる学術研究の社会的認知・評価を獲得する。
3. 組織・資格者制度を活用して、全国規模の会員構成・活動を実現する。
4. 国・地方行政への提案・発信力を強化し、イベントの実現力を高める。
5. 安定した収支と健全な機関運営を行う。

【機関運営】

1. イベント学会・活動推進部会（仮称）の設置

目 的：研究活動と交流活動の活性化

会員の拡大と組織強化

内 容：研究活動の進捗状況の把握と共有化

交流活動の企画・実施

会員拡大施策の企画・実施

実 施：各都市（東京・大阪・名古屋）にて隔月開催（各都市年6回）

構 成：部会長 理事会にて選出

副部会長 在東京・大阪・名古屋の会員を各1名、部会長が選出・任命

部 員 部会長・副部会長にて検討・依頼

【具体的施策】

1. イベント学研究会

目 的：会員による研究会活動により、

①イベントに関わる学術研究の社会的認知・評価を獲得し、国・地方行政への提案・発信力を強化する。

②会員相互の有益な情報共有の場とする。

実 施：座長による研究会活動提案（新規・継続）を理事会にて行い、検討・承認のうえ発足・活動。

年度末理事会にて研究成果報告を義務付ける。

次年度も活動継続の場合は活動計画を提案し、理事会承認のうえ継続する。

参 考：2014年度研究会

「ソーシャルイベント研究会」 座長：小林政則理事

「東北復興博覧会研究会」 座長：福井昌平理事

「まち歩きイベント研究会」 座長：小林政則理事

「安全対策研究会」 事務局、JACE、日本警備業協会

予 算：原則として各研究会独立採算とするが、必要に応じて申請・年度予算調整・理事会承認のうえ予算付与を行う。

2. 研究大会

- 目 的：会員による研究発表と学会としてのメッセージ発信により、
- ①イベントに関わる学術研究の社会的認知・評価を獲得し、国・地方行政への提案・発信力を強化する。
 - ②学会のプレゼンスを向上させ、会員の維持・拡大を実現する。

実施日：2015年10月20日（火）

会 場：名古屋ミッドランドホール

予 算：500万円

3. 交流イベント

- 目 的：イベントに関連する技術・商品・サービスなどの情報を会員間で共有すると同時に、非会員との交流を図りながら新規会員獲得を目指す。

内 容：「イベントロジーサロン（仮称）」

法人会員研究所、会員研究員、関連機関・団体の協力を得て、イベント関連の講演・セミナー・各種体験会・懇親会を定期的に行う。

実 施：東京・大阪・名古屋の各都市で実施

対 象：会員、JACE資格者、イベント関連団体会員

予 算：30万円

4. 機関誌「イベント学研究 (Journal of Eventology)」発行

- 目 的：イベントに関わる学術研究の質と量を向上させ、イベント学の社会的認知・評価を獲得する。

内 容：研究論文およびイベント学関連情報を掲載した機関誌

「イベント学研究 (Journal of Eventology)」を発行する。

実 施：年に一度発行（2016年3月第一号発行予定）

予 算：48万円（B5判500部）

5. 研究助成

- 目 的：会員の研究活動の助成（モチベーション・質・量の向上）

研究成果を論文としてジャーナルに投稿。

実 施：募集～選考～研究発表～ジャーナル用論文提出～ジャーナル掲載

※詳細は活動推進部会にて検討・決定

予 算：30万円

6. 広報活動

目 的：会員への有益な情報の提供、研究会・研究発表・寄稿などのコンテンツを
発信し、会員相互の交流と学会活動のPR、新規会員獲得を目指す。

メディア：

◇会報誌「イベントロジー」

・総会実施報告号（7月予定）と研究大会特集号（1月予定）をベースに、
イベント学情報誌として不定期に発行。

◇ウェブサイト

・機能的なウェブサイトリニューアルし、機関運営の効率化を図る。
会員にとって有益でタイムリーな情報の提供、各種資料のアーカイブ化を推
進する。

予 算：200万円

7. 関連団体との連携

各種施策において、

JACE（日本イベント産業振興協会）

JEPC（日本イベントプロデュース協会）、

JEDIS（日本イベント業務管理者協会）

JENA（日本イベントネットワーク協会）

などの、イベント関連団体との具体的な連携を実現する。

◇案1：JACE資格者・各団体会員の研究大会への参加取り込み。

◇案2：JACEイベントアワードに研究部門賞（イベントロジー賞）を設置。

◇案3：機関誌「イベント学研究」への寄稿・記事依頼。

8. 各種イベントへの協賛・後援

目 的：各種イベント開催の支援により、イベント業界の活性化、イベント学会の
認知度・プレゼンスの向上、会員の獲得・拡大を実現する。

内 容：各種イベント告知・実施での協賛・後援名義露出。

会員へのイベントの案内と参加促進。

実 施：物件毎に検討・実施

予 算：名義、実務協力のみ

◇ 2015年度予算計画（案）

自 2015年4月1日 至 2016年3月31日

収入の部		
科目名	14年度決算	15年度予算
入会金収入	60,000	220,000
年会費収入 個人会員	1,310,000	1,160,000
年会費収入 準会員	0	20,000
年会費収入 自治体会員	0	50,000
年会費収入 法人会員	6,500,000	6,600,000
事業収入 研究大会	1,062,000	1,000,000
事業収入 交流サロン等	222,000	0
受取利息	0	0
当期収入計	9,154,000	9,050,000
支出の部		
科目名	14年度決算	15年度予算
事業費 研究大会	3,316,450	5,000,000
事業費 広報事業	1,657,799	2,000,000
事業費 研究助成	338,751	300,000
事業費 交流イベント	340,602	300,000
事業費 ジャーナル発行	0	480,000
事業費 各種イベント協賛・後援	0	0
事業費 その他	0	0
事業費計	5,653,602	8,080,000
給与・通勤費・ボランティア費	876,801	500,000
会議費	406,752	200,000
旅費交通費	332,935	300,000
消耗品費	137,189	120,000
通信運搬費	261,261	100,000
印刷費	162,864	100,000
賃借料	648,000	300,000
資料費	325,188	10,000
謝金	0	0
会場費	83,489	200,000
支払手数料	17,707	15,000
雑費	36,142	30,000
管理費合計	3,288,328	1,875,000
当期支出計	8,941,930	9,955,000
当期収支差額	212,070	-905,000
前期繰越	782,298	994,368
次期繰越収支差額	994,368	89,368

第 3 号議案

イベント学会会則変更（案）承認の件

◇イベント学会会則改正（案）

イベント学会会則では、解散は「総会において会員の4分の3以上の承認を得なければならない」と定めるが、次ページに示す通り出席と委任の合計が全会員数の6割を上回ることも容易ではない状況であるため、議決権と解散に係る条項（第26条、第35条）を改正いたしたく。また、既に廃止された民法に準拠する第13条についても改正する。

改正前	改正（案）
<p>第13条 会長は、本学会の活動を総理し、本学会を代表する。 （中略） 8. 監事は、民法第59条に定める職務を行う。</p>	<p>第13条 会長は、本学会の活動を総理し、本学会を代表する。 （中略） 8. <u>監事は、本学会の財産及び理事の業務執行の状況を監査し、法令、会則に違反し、又は著しく不当な事項があると認めるときは、総会に報告する。報告のため必要があるときは、総会を招集する。</u></p>
<p>（議決権） 第26条 議決権は、会議を構成する個人会員、自治体会員、法人会員がそれぞれ1票を有する 2. やむを得ない理由のため、会議に出席できないものは、あらかじめ通知された事項について書面をもって議決し、又はその会議を構成するものに議決権を委任することができる。 前項に定めるところにより議決権を行うものは、出席したものと見なす。</p>	<p>（議決権） 第26条 議決権は、会議を構成する個人会員、自治体会員、法人会員がそれぞれ1票を有する 2. やむを得ない理由のため、会議に出席できないものは、あらかじめ通知された事項について書面<u>あるいは電磁的方法</u>をもって議決し、又はその会議を構成するものに議決権を委任することができる。 前項に定めるところにより議決権を行うものは、出席したものと見なす。</p>
<p>（解 散） 第35条 本学会の解散は、総会において、会員の4分の3以上の承認を得なければならない。</p>	<p>（解 散） 案1 第35条 本学会の解散は、総会において、会員の<u>3分の2以上</u>の承認を得なければならない。</p>

(参考資料)

- ・2014年5月に開催した理事会・総会の出席（代理出席）、委任状況は以下の通り。
- ・総会出欠の返信（委任状）がない会員が多く、会員の6割弱の出席（委任状含む）となった。

理事会

理事総数

30

 ①

	出席	代理	委任	計
個人会員理事	15	0	3	18
法人会員理事	8	1	0	9
				27 ②
			②/①	90.0%

総会

個人会員数

174

法人会員数

39

会員総数

213

 ③

	出席	代理	委任	計
個人会員	28	0	70	98
法人会員	14	4	8	26
				124 ④
			④/③	58.2%

第4号議案

2015年度会費納入方法（案）承認の件

◇2015年度会費納入方法（案）

2015年度会費は統合の如何に関わらず、例年と同額の会費の納入をお願いする。期中統合の場合は、2016年度から会費の改定を行う。

手続き：①本総会での統合基本計画承認後に、全会員に統合基本計画をアナウンスし、同時に2015年度会費請求書および8月臨時総会案内を送付。

②2014年度会費未納者については、会則に則り退会とする。

③統合の際には、新団体2016年度会費を総会承認後に全会員に通知。

④2016年4月以降に請求書（新団体会費）を送付。

※本総会から、2015年8月臨時総会までの期間の入会希望者については、統合計画を説明のうえ入会申込みを受理。

第5号議案

イベント学研究会2014年度活動報告

および2015年度活動計画承認の件

1. 「東北復興博覧会構想研究会」

座長：福井昌平理事

(資料：東北復興博覧会構想)

2. 「ソーシャルイベント研究会」

座長：小林政則理事

(資料：「ソーシャルイベント研究会」)

3. 「まち歩きイベント研究会」

座長：小林政則理事

4. 「安全対策研究会」

イベント学会・日本イベント産業振興協会・日本警備業協会

(資料：安全対策研究会)

報 告 1

2015年度新規研究会発足および検討準備委員会発足の件

◇2015年度新規研究会

「スタジアムイベント研究会」

座長：萩裕美子理事

※資料『スタジアムイベント研究会設立計画（案）』

◇2015年度新規研究会検討準備委員会

『「東日本大移動博覧会の開催」検討準備委員会』

座長：岩崎博理事

※資料『「東日本大移動博覧会の開催」検討準備委員会設立（案）』

報 告 2

ジャーナル編集委員会発足の件

学会誌『イベント学研究』発行と編集委員会設立の提案 『イベント学研究 (Journal of Eventology)』編集規程ならびに 『イベント学研究 (Journal of Eventology)』投稿規程制定の提案

学会誌『イベント学研究』発行検討委員会
委員長 師岡文男

標記の件につき、2014年7月3日(木)、9月3日(水)、12月15日(月)、2015年4月29日(祝・火) 計4回委員会を開催し検討した結果、2015年度より下記のとおり、学会誌『イベント学研究』を発行し、編集委員会を設立することを提案いたします。また、『イベント学研究 (Journal of Eventology)』編集規程ならびに『イベント学研究 (Journal of Eventology)』投稿規程の制定を提案いたします。

記

1. 学会誌名
イベント学研究 (英語名 : Journal of Eventology)
2. 発行回数
当分の間、年度末に1回発行
3. 初年度発行予算
創刊号の編集発行予算 480,000円 (B5版500部)
4. 2015年度学会誌『イベント学研究』編集委員会委員候補
師岡文男 (編集委員長)、野川春夫 (副編集委員長)、内田なお子 (編集委員)、
加藤淑子 (編集委員)、工藤康宏 (編集委員)、栗原 毅 (編集委員)、
小林政則 (編集委員)、萩裕美子 (編集委員)、山口志郎 (編集委員)
5. 『イベント学研究 (Journal of Eventology)』編集規程案・投稿規程案 (別紙)

報 告 3

2015年研究大会進捗状況の件

イベント学会 2015年度研究大会 基本計画(案)

《国連エコドライブとのコラボレーションイベントとして開催》

	イベント学会	国連エコドライブ
事業冠	愛・地球博 継承事業	
イベントタイトル	イベント学会第18回研究大会	Global Environment, Carbon Reduction and EcoDrive Conference
	“イベントサロン2015名古屋”	ECO DRIVE JAPAN 2015
全体テーマ	“愛・地球” Ecology & Eventology	
個別テーマ	地域創生とイベント	Global Environment, Carbon Reduction and EcoDrive
主催	イベント学会	WAFUNIF World Association of Former United Nations Internes and Fellows
共催	一般社団法人日本イベント産業振興協会	株式会社アスア
後援(案)	愛知県・名古屋市・一般財団法人地球産業文化研究所	
後援(案)	経済産業省	国連・環境省・国土交通省
協賛(案)		自動車メーカー
協力(案)	中日新聞・一般財団法人愛知広告協会	
開催日	2015年10月20日(火)	
会場	ミッドランドホール(名古屋市中村区名駅四丁目7番1号 ミッドランドスクエア オフィスタワー5F)	
参加者数	300名	
	150人	150人
参加費用	有料	招待(無料)